

# 国立新美術館

設計・監理者：株式会社黒川紀章建築都市設計事務所 黒川紀章  
 株式会社日本設計 人見泰義、中村 伸  
 施工者：鹿島建設株式会社 大野平雄  
 清水建設株式会社 田中純一



建物外観（撮影：森嶋康洋）

## 建築概要

建設地：東京都港区六本木七丁目22-1  
 建築主：文化庁  
 設計：黒川紀章・日本設計共同体  
 施工：I工区 鹿島・大成・松村JV、  
 II工区 清水・大林・三井JV  
 竣工：2006年6月  
 建築面積：13,096㎡ 延床面積：48,580㎡  
 階数：地上6階、地下2階 高さ：29.5m  
 構造種別：鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造

## 選評

国立新美術館は、都心部青山霊園に隣接する旧東京大学生産技術研究所跡地に建てられた我が国を代表する美術館である。このような一般に広く知れわたる大規模公共建築に免震構造を採用したことは評価される。

本美術館は収蔵品を持たない、企画型・公募展のための美術館である。諸外国からの貴重な美術品を地震国である日本で展示する国立美術館が、免震構造で建てられたことに大きな意義がある。

本建物は130m×60mの整形な形状を持つ巨大な展示部とその南側に複雑な曲面のガラスファサードを持つアトリウムで構成される。展示部は、2,000㎡の柱の無い展示室を3層積み重ねた効率の良い架構計画を行い、水平地震力が小さくなる免震構造の利点を生かすとともに、鉛直荷重を集約することで免震層の長周期化と合理化を図っている。アトリウムの構造マリオン材は曲面のガラスファサードを支持するために様々な工夫が施されている。また、建物と地面との境界が、免震構造であると感じさせない処理がなされている。

本建物は免震構造として望ましい美術館でそれを実現し、免震構造を生かす建築計画、構造計画がなされており、作品賞に相応しい建物である。

(北村春幸)

## 免震化した経緯及び企画設計等

本建物は、多様化する現代美術など急速に進展する美術活動にも対応できる、我が国を代表する5館目の美術館として、機能的で利便性の高い展示空間や関連施設が配置されている。

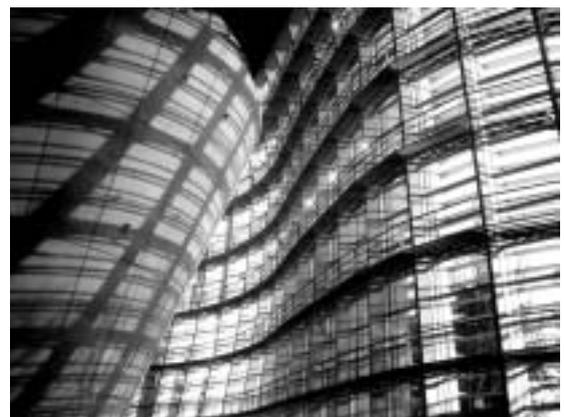
免震構造を採用することにより、大地震時に展示作品を保護するだけでなく、大空間の積層構造を合理的に実現するとともに、在来工法では難しい3次曲面の透明感あるガラスファサードを持つ無柱空間の大規模アトリウムを実現しているのが建築的な特徴となっている。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

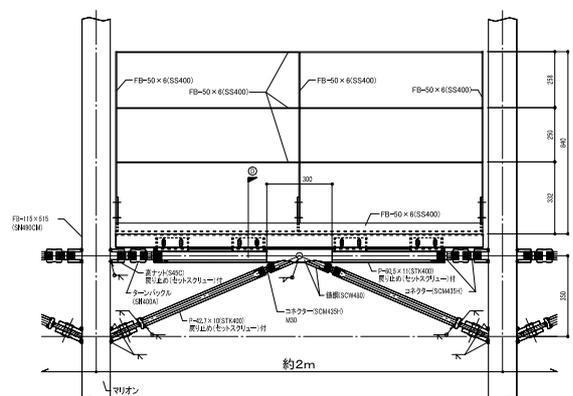
アトリウムは高さ約23m、面積約3,000㎡の無柱空間であり、ガラスファサードと一体となった構造マリオンがアトリウムの屋根を支える架構としている。

ガラスファサードが3次曲面をなすため、構造マリオンは最大2.8mの大曲がりがあるが、115mm×515mmの無垢のスチール（フラットバー）を最大9,500Rで曲げ加工して用いている。

架構に加わる設計地震力は免震効果により約1/3に低減されるため、60.5φと42.7φのパイプで出来たつなぎトラスを約4m毎に設けるだけで、サッシュ面の面内剛性を確保でき、ガラスファサードの透明感を生かしている。



アトリウム内観（撮影：人見泰義）



アトリウム横つなぎ詳細